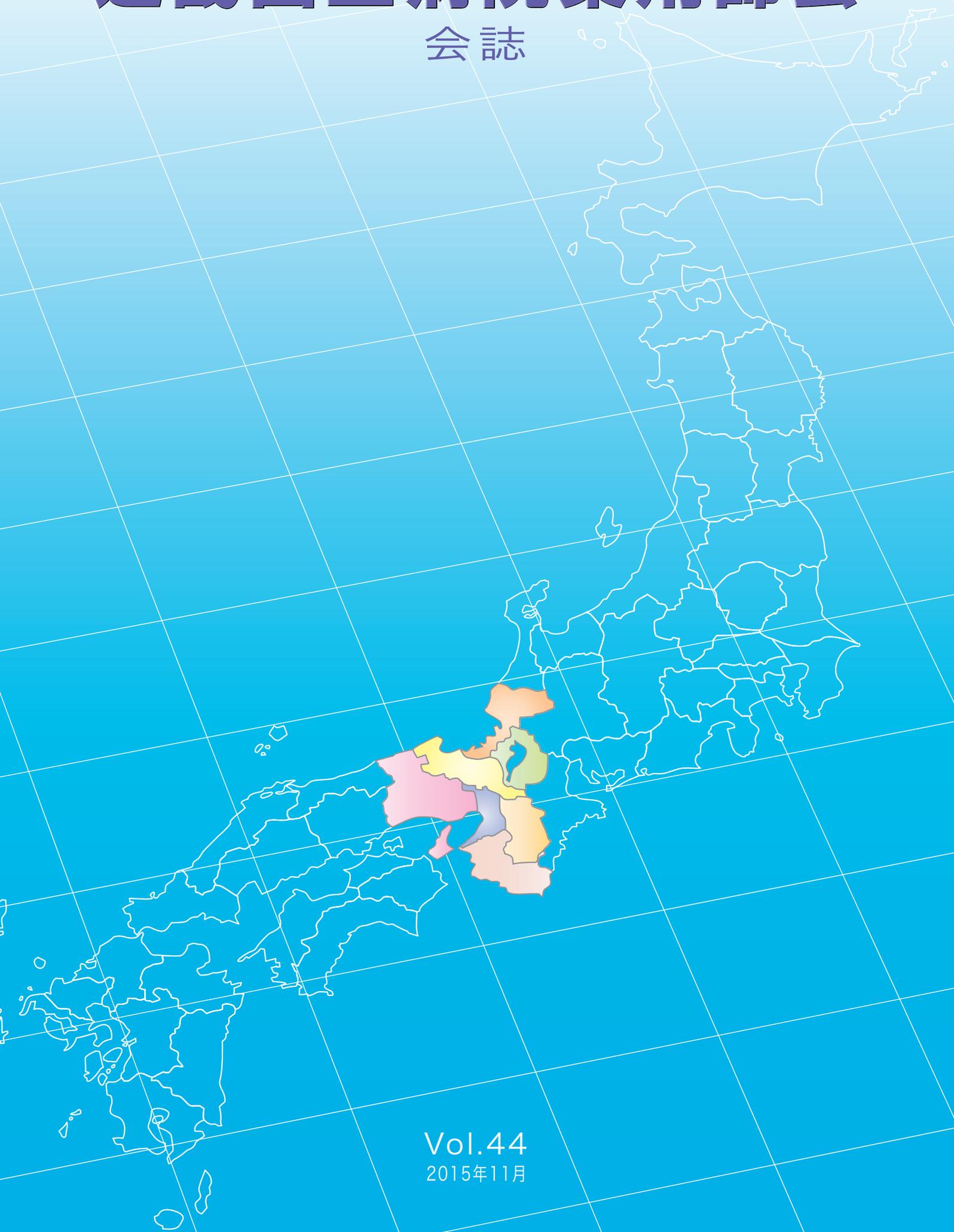


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.44

2015年11月

目 次

提言～伝わる伝え方～.....	2
あわら病院 坂本 泰一	
薬剤部紹介.....	3
敦賀医療センター 田村 憲昭	
平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会教育研修委員会・業務検討委員会合同 卒後 OSCE を終えて.....	5
大阪医療センター 上野 裕之	
平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会教育研修委員会・業務検討委員会合同 卒後 OSCE に参加して.....	9
宇多野病院 澤村 忠輝	
「第 69 回 国立病院総合医学会」に参加して.....	10
東近江総合医療センター 西村 真奈	
「第 9 回 日本腎臓病薬物療法学会学術集会」に参加して.....	11
京都医療センター 木原 理絵	
新採用者紹介.....	12
趣味のページ ～秋を感じて～.....	13
兵庫あおの病院 仲野 宏紀	
編集後記.....	14

提言～伝わる伝え方～

あわら病院 坂本 泰一

チーム医療では、それぞれの職種間で良好なコミュニケーションが求められます。しかし、医療の現場で起こっているインシデント・アクシデントの多くが、情報伝達不足などのコミュニケーションエラーが原因として起こっています。

今年度の日本医療機能評価機構の医療安全情報で、口頭指示や依頼をした際、意図した内容が受け手に伝わらず、間違って解釈した事例が報告されています。

『医師は患者に上部消化管内視鏡検査を開始したところ嘔吐反射が強く、喉まで進めたところで検査終了となった。医師は、内視鏡室に入ってきた看護師に「検査していない」と伝え、内視鏡を検査台にかけた。看護師は医師の言葉を「内視鏡を使用していない」と解釈した。医師と看護師の会話を聞いた内視鏡洗浄担当の看護助手も、内視鏡は使用していないと解釈し、洗浄・消毒しないまま別の患者に使用した。』

医師が意図した内容が、看護師・看護助手には伝わらずに間違って解釈した事例です。事例が発生した医療機関は、口頭による指示や依頼をする際、送り手は相手に意図が伝わる言葉を使用するようにという対策を立てました。

朝礼で業務手順の変更について説明したので伝わったと思い込んでいたら、実際はほとんど伝わっていなかったという事例などはよくある話で、伝わる状態をつくることは難しいことです。伝えた言葉をどう受け取るかは相手次第で、コミュニケーションは「伝える」ことではなく「伝わる」こととも言われています。

ある経営者は、伝える際にわかりやすい表現を使うよう心がけていると言います。例えば5Sの重要性を理解させるために、「整理とは、探しものの所在が5秒以内にわかる状態をつくること」、「整頓とは、不要なものを3日以内に捨てること」といったように、誰が聞いてもその状態が具体的にイメージできるような表現で伝えているそうです。さらに、常に対話を通じて、伝えたことが相手に伝わったかどうかを確認し続けているそうです。

「伝える」の主語は自分です。自分目線で相手のことを考えずに話すと、相手に自分の伝えたい事が伝わらないことがよくあります。「伝わる」の主体は相手です。相手目線で自分の話す内容を整理して話すと、自分の伝えたい事がきちんと相手に伝わるが多くなります。

管理者になると、部下に指示を出して結果報告を求める機会が増えます。指示を伝える際、ほとんどの方は「相手が自分の意図を理解し、自分自身で動くことができるように」と意識していると思います。しかし、つい「伝えたいつもり」になってしまうことが多々あります。相手目線に立って、自身の思い、職場で共有すべき情報や価値観をわかりやすく、そして繰り返し伝えることで、「伝わる伝え方」を心がけていきたいと思います。



薬剤部紹介

独立行政法人 国立病院機構 敦賀医療センター

<概要>

敦賀医療センターは福井県嶺南地域の二州保険医療圏における基幹的な総合専門医療機関として、高度で質の高い医療を提供しています。病床規模は 273 床（一般 150 床、重症心身障害 120 床、結核 3 床）で標榜診療科は 21 科にわたります。平成 19 年 1 月に地域がん診療連携拠点病院に指定され、重症心身障害児（者）医療・血液凝固異常疾患・呼吸器疾患を政策医療としています。



（平成 27 年 10 月撮影）

<沿革>

当院は明治 31 年 3 月に敦賀連隊区司令部敦賀衛戍病院として開設され、その後国立療養所敦賀病院に改称しました。その後、平成 15 年 7 月 1 日に国立療養所福井病院と統合し、国立福井病院となり、平成 16 年 4 月 1 日に独立行政法人国立病院機構福井病院、平成 27 年 4 月 1 日に独立行政法人国立病院機構敦賀医療センターと改称され、現在に至ります。偶然ですが敦賀気比高校が春の選抜高校野球で優勝した日であります。

<当院理念>

私たちは、患者さんの立場に立った 開かれた医療、患者さんに信頼される質の高い医療を提供します。

<基本方針>

- ・安心・安全で質の高い医療の提供及び患者・地域住民満足度の更なる向上
- ・良質な医療を提供するための健全な経営
- ・地域医療連携体制（紹介・救急・在宅）の強化並びに地域包括ケアシステムへの貢献と医療機能の分化・連携
- ・臨床研究等（治験・受託研究等）の推進

<薬剤部について>

薬剤部の構成メンバーは薬剤部長、副薬剤部長、主任薬剤師 2 名、薬剤師 6 名の計 10 名です。

当院は電子カルテを導入しており、調剤業務の効率化・医療安全推進を図っています。さらに、日常業務では T P N 無菌調製、抗がん剤無菌調製、入院・外来での化学療法患者への服薬指導、一般病棟 3 病棟のカートによる注射薬払い出しや重症心身障害児（者）の 3 病棟の調剤、チーム医療では N S T、褥瘡回診、緩和ケアチーム、I C T などに積極的に参画しています。

今年度は 9 月より薬学長期実務実習生を 1 名受け入れ、部員全員でスケジュール作成をして指導にあたり、我々にとっても良い刺激となりました。

薬剤管理指導では今年度月平均 390 件と昨年度の月 340 件を上回る成績を上げています。平成 24 年 4 月より病棟薬剤業務実施加算は 3 病棟が対象で 1 病棟につき 2～3 人体制で実施しています。全患者様の入院時から退院時まで薬剤師が関与できる体制を目指しています。

平成 27 年初から臨床研究部を立ち上げ薬剤部でも治験業務に取り組める体制を整えています。さらに、平成 27 年 4 月より 5 階病棟で地域包括ケア病棟の運営が開始となっています。また、地域住民への啓発活動をするため、看護フェアや地域公開フォーラムで薬剤師が薬の相談を行うことや糖尿病の会「さくら会」で講演を行い、患者に優しい医療、患者から信頼される薬剤師をスタッフ一同目指しています。

(文責：田村 憲昭)



薬剤部 10 名と実習生 1 名（平成 27 年 9 月撮影）

平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会教育研修委員会・業務検討委員会合同 卒後 OSCE を終えて

業務検討委員会委員長

大阪医療センター 上野 裕之

平成 27 年 10 月 31 日（土）に大阪府中央区大手前にある大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）にて、卒後 OSCE を実施した。参加者は、被評価者 25 名、評価者・協力者 84 名の合計 109 名であった。薬剤師会では、前年度より教育研修委員会（薬剤部科長・副部科長が主な委員）の事業として卒後 OSCE が計画されていた。その理由は、①薬剤部科員の年齢構成が若年



化していること。②病棟業務の急速な拡充や薬剤師業務の多様化により、薬剤部科員が中央業務（調剤、無菌調製、治験業務、DI 業務、薬務業務）に携わる時間が減少していること。これら理由で各業務の中で基本的な重要事項が伝承されず欠如してはいないだろうか？との懸念からであった。一方、業務検討委員会（主任薬剤師が主な委員）でも主任薬剤師がチーム医療（がん、ICT、NST 等）の専任化や主任薬剤師の若年化により中央業務について後進への指導が十分に行えていないのではないかとの意見があった。今年度の事業計画を立案するにあたり、二委員会の合意から合同で卒後 OSCE を実施することとなった。今回の OSCE の目的は、「被評価者となる薬剤師は、自身を自己評価し、自身の成長に繋げるとともに後進への指導を向上させる良き資料とすること」と「主任薬剤師は、業務の重要な事項を理解し、後進を如何に指導して行くべきかを協議するなかで教育・指導者としての知識と質の向上を図ること」にした。これら目的を達成するために課題や面談時間の選定、面談ブースの設置等、綿密に事前協議した。

業務検討委員会では 3 月、5 月に 4 小委員会で課題案の作成、OSCE の進行や必要物品等について協議をした。9 月の教育研修委員会との打合せ会において、課題の原案にて、物品の選定、ブース設置配置や人員の配置、被評価者の流れ等の最終確認を行った。

当日は、早朝の 8 時 30 分から集合して課題の打合せ、会場及び物品の準備を行った。パーテーションにて 10 ブース 20 部屋（1 ブースに課題部屋と面談室の 2 部屋）を準備し、課題は 5 課題を A・B の 2 レーンで同時に進行させた。評価者は、被評価者を評価する主任薬剤師（2 名）と主任薬剤師の評価内容や指導内容を評価する教育研修委員（1 名）を配置した。



<タイムキーパー、アナウンス>

1 課題の実施時間は7分、移動3分とタイトなスケジュールであったが大きな混乱もなく進行できたと考えている。5 ブースの課題は、薬剤業務小委員会担当の散薬調剤（倍散計算や散剤の秤量）と無菌調製（末梢栄養輸液の無菌混注操作）、治験小委員会担当の治験薬調剤（治験薬管理手順や治験薬の調剤）、情報管理小委員会担当のDI 質疑応答（錠剤鑑別や医師からの相談応需）、薬品管理小委員会担当の薬品管理

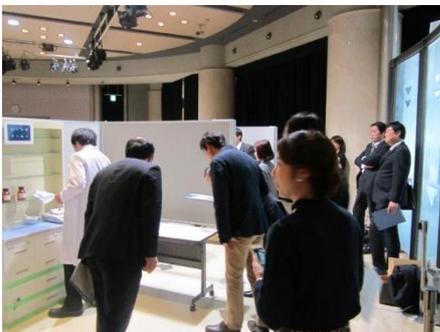
（納品時の検品や医薬品の充填）とした。評価票の集計結果や参加者からのアンケート結果は、平成 27 年度合同会議やホームページ等にて報告する。

次に、各小委員長から各ブースの課題の作成や実施について感想等を掲載する。

ブース 1（散薬調剤）・ブース 2（無菌調製）

薬剤業務小委員長 井上 敦介(大阪南医療センター)

卒後 OSCE 実施にあたり、薬剤業務小委員会からは、病院薬剤師として基本業務となる課題について検討した。その結果、調剤（散薬）と無菌調製の 2 課題に決定した。卒後 OSCE は初の試みであり、その意義として大学 OSCE との差別化を図る必要があるとの意見も挙げられた。具体的には、臨床薬剤師として必要な課題レベルであることや、実施のみに留まらずフィードバックにも重きを置くことである。これにより、被評価者は自施設で学んできた「技能」や「知識」を改めて振り返ることとなり、客観的評価を受けることで自身を再分析し、今後の成長に繋げる良い契機となったと思う。



<散薬ブース>



<無菌調製ブース>

ブース 3 (治験薬調剤)

治験小委員長 本田 富得(大阪南医療センター)

様々な治験業務の中で、薬剤師が習得してもらいたい業務を小委員会で検討した結果、「治験薬調剤」に焦点を当て、問題設定や評価ポイントについて協議を重ねてきた。

今回、始めて卒後 OSCE を実施して、治験薬管理について薬剤師会で手順書や管理ファイルの雛形を作製し、各施設の治験薬管理する上で参考となれば、施設を転勤しても同じような手順で治験薬管理を行うことができ、治験薬調剤がスムーズに行えると思った。



<治験薬調剤ブース>



<課題終了後の面談>

ブース 4 (DI 質疑応答)

情報管理小委員長 大津 幸(大阪南医療センター)

今年度は教育研修委員会と合同で卒後 OSCE を行うと決まって10か月間は先が見えない不安な日々だった。近畿管内 21 施設の担当者とメールを通して作業を進め、小委員会開催時に一堂に会して話し合いを行って来たが、DI 質疑応答の具体的なイメージが掴めず全貌が見えてきたのは教育研修委員会との合同会議で課題と評価票が提示されたときであった。振り返ってみると医療従事者からの相談応需に対する適正度を判断することの難しさを理解するよい経験となった。当日は、課題を通して若い世代に対し、新たな発見や日頃の不足している事象が目に見えてわかった。また、自施設以外の薬剤師との交流もあり、意義を十二分に感じられた事業であった。今後は、2-3年に一度程度開催を行い、新たな研修の形として発展していくのが良いのではないかと思った。



<DI 質疑応答ブース：医師へ回答中>



<課題終了後の面談>

ブース 5 (薬品管理・納品時検品)

薬品管理小委員会 松村 なるみ(循環器病研究センター)

薬学共用試験の OSCE には薬務に関連する領域がないため、課題作成に当たって参考にするものがない中、薬品管理小委員会の委員がアイデアを出し合って医薬品の納品時の検品業務と充填業務の課題を選定した。日常業務として、当たり前に行っていることを課題にすべく考えたが、施設間格差や課題レベルに注意を要した。また、薬品外箱に貼付する製造番号および使用期限の記載部分を作成した委員には多くの作業時間を割いていただいた。個人的には評価までを行うことで、若手へ教育を行うにあたり、至らなかった部分や反省点などに気付くことができた。大変な事業であったが、評価者と被評価者、どちらの立場の方も、少し前進する機会を得たように感じる。



<薬品管理・納品時検品ブース：会長・

副会

長にも納品業者役・評価者をお願いした>

最後に、本会の開催に当たりご指導を賜りました山崎会長、石塚副会長、本田副会長、ご尽力を賜りました関本教育研修委員会委員長をはじめとする教育部の委員の先生方、課題等の素案から実施に至るまで協議を重ねて頂いた業務検討委員会委員の先生方、当日の実施に当たりご協力を賜りました参加者の先生方、また、業務多忙のところご理解とご協力を賜りました施設の薬剤部科長の先生方に厚く御礼申し上げます。

平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会教育研修委員会・業務検討委員会合同
卒後 OSCE に参加して

宇多野病院 澤村 忠輝

平成 27 年 10 月 31 日に大阪のドーンセンターで卒後 4・5 年目薬剤師を対象とした卒後 OSCE に参加しましたので報告させていただきます。

内容は、散薬調剤・無菌調製・治験薬調剤・DI 質疑応答・薬品管理の計 5 つの課題が用意されており、それぞれ 8 分間課題を行った後に評価者の先生方（課題ごとに 2 名）からフィードバックしてもらうという流れでした。

各課題の中で特に難しいと思ったのは DI 質疑応答と薬品管理でした。

DI の課題は錠剤の刻印から医薬品名を調べること、抗凝固剤の効果持続時間、検査値から推測される副作用とその被疑薬及び対処について回答するというものでした。医薬品に関する問い合わせに対しては普段の業務でも対応することが多々ありますが、制限時間があり、そして評価を受けながら、という状況の中でつい焦ってしまい冷静に課題に向き合うことができませんでした。確かに振り返ってみるとメーカーの学術部門に問い合わせたり、先輩薬剤師に頼ったりが多く、自分自身で情報を得て判断する力が足りていないなど痛感しました。医療の現場では必要な情報をいかに迅速かつ正確に提供できるかが求められるので、こういった能力を意識して伸ばしていきたいと思います。

薬品管理の課題は納品時の検収についてでした。医薬品名、規格、包装単位、伝票の日付、ロット番号、使用期限など注意点多くあり、今まではただか納品と考えていた自分にとっては衝撃的な課題でした。書類に検収印を押すだけという単なる作業ではなく、医薬品である以上は間違いがあってはいけないという意識が足りていなかったと思います。この課題では納品時の注意すべきポイントが良く分かったので勉強になりました。

当初は OSCE といえば大学 4 回生、病院・保険調剤薬局での実務実習をするうえでの最低限の知識を試験するものと認識していたので、薬剤師になって 4 年目にこういった評価を受けるのは少し戸惑いと OSCE をすることの必要性も疑うところが正直ありました。

しかし、自分自身の知識面や意識面での不足している部分、無意識に忘れてしまっていた基本動作など改善点を多く見つけることができました。基本をしっかり身に付けておれば、環境が変わっても適応できると思うので、今回の経験を忘れずに日々の業務を見直し向上していきたいと思います。

最後に卒後 OSCE の企画・運営・準備に携わっていただいた先生方、ご多忙の中、本当にありがとうございました。

「第 69 回 国立病院総合医学会」に参加して

東近江総合医療センター 西村 真奈

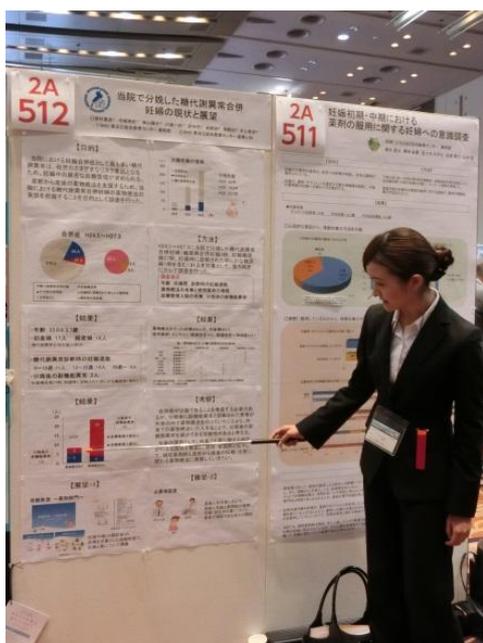
平成 27 年 10 月 2 日（金）～3 日（土）に札幌市のロイトン札幌において、第 69 回 国立病院総合医学会が開催されました。今回私は、「当院で分娩した糖代謝異常合併妊婦の現状と展望」という演題でポスター発表をさせていただきました。

当院では、平成 24 年より産婦人科での分娩が始まり、市内唯一の分娩施設を有した総合病院として、滋賀県の周産期協力病院にも指定されています。そこで、薬剤部としても産科領域における産前から産後の薬物療法を支援するため、当院の妊娠合併症として最も多い糖代謝異常合併妊婦の薬物療法の実態を調査し、今後の展望について報告を行いました。

全国の国立病院機構の先生方との交流を通し、国立病院機構の規模の大きさを改めて感じました。他施設や他職種の先生方の発表を聞くことで得た情報は、今後の日常業務の助けになると思います。また、爆弾低気圧接近という悪天候に見舞われながらも、最終日はお天気にも恵まれ、札幌の美しい景色を楽しむこともできました。

まだまだ未熟な自分にとって、今回の学会で発表させていただいたことは良い刺激となり、これからも日々研鑽を怠らず、勉強していこうという気持ちを新たにしました。

最後になりましたが、今回の発表に関し多くの先生方よりアドバイスをいただきました。このような発表の機会をいただいたこと、ご指導・ご鞭撻いただいた先生方に深く御礼申し上げます。



「第9回日本腎臓病薬物療法学会学術集会」に参加して

京都医療センター 木原 理絵

日本腎臓病薬物療法学会は、腎臓に関わる薬剤適正使用を推進するため2012年に設立された学会である。腎機能低下患者に対する薬剤管理は薬剤師にとって関心の高い分野であり、学会参加数は年々増加している。

今回の学会テーマは「薬物療法の imagine～なぜ、今腎なのか?～」。
今後薬物療法において、腎に関わる副作用がなくなること、薬剤性腎障害がなくなること、そのために薬剤師として今何ができるのか想像してみようという学会長の思いが込められている。

腎機能低下患者に対し最適な薬物療法を実現するためには、腎機能の正確な把握、薬物動態を考慮した投与設計、病態やライフスタイルに配慮した処方提案、アドヒアランス向上を促す服薬指導、チーム医療の中での多職種との連携など薬剤師に求められる役割は大きい。しかし、「言うは易し、行うは難し」であり腎臓の薬物療法は複雑で、「例外」がいくつも存在するなど考えるべきことが多岐にわたる。

学会のシンポジウムでは腎機能の評価方法など基礎から学べるシリーズから透析による薬物除去の考え方など専門的なものまで幅広く学べる内容になっている。

その中で特に興味深かったのが腎不全患者に対するワーファリン(以下 Wf)の投与についてである。末期腎不全患者は、Wf 服用による大出血リスクが腎機能正常者に比べ約 10 倍増大すると報告されている。Wf の添付文書上、重篤な腎機能障害患者では代謝・排泄が遅延するという理由から投与禁忌になっているが、代謝・排泄の遅延は腎機能低下患者では認められない。むしろ末期腎機能障害患者では、尿毒症症状によりビタミン K 摂取量が不安定になること、そして透析患者では血液透析時にヘパリンを使用することなど、Wf 服用による出血性合併症の増加が危惧されるため使いにくいというのが実情であるようだ。しかし、たとえ禁忌であっても血栓リスクが高い場合は Wf を投与せざるを得ない。そのため透析患者では PT-INR を 2.0 未満に維持することが推奨されている。

驚いたのは、末期腎障害患者に対し Wf が禁忌であることについて認識している腎専門医が約 30%未満と少なかったことだ。

現在、全国約 5%の病院で処方箋への検査値の表記が開始されており、今後調剤時に腎機能を確認することは薬剤師に必須の業務となるだろう。ガイドラインに従うだけでなく、なぜ禁忌・減量が必要なのか腎臓病薬物療法においての原則と例外を理解し、如何なる場合でも最適な薬物療法を提案できる薬剤師を目指したいと思った。

新採用者紹介

～①氏名 ②施設 ③座右の銘、好きな言葉 ④抱負～

①山口 志郎 (ヤマグチ シロウ)

②兵庫中央病院

③「ひとつひとつ丁寧に」

④2015年9月より兵庫中央病院にお世話になっています。

今まで地域の民間病院で2年半勤めましたが、毎日新しいことの連続でいろいろなことを経験させていただいています。兵庫中央病院の一員として患者さまのために力になれるよう、ひとつひとつ丁寧に取り組んでいきたいと考えています。今後ともご指導宜しくお願い致します。

①塚本 名奈子(ツカモト ナナコ)

②姫路医療センター

③「失敗を怖れない」

④医師、看護師、他メディカルスタッフの皆さんと積極的に関わり、チーム医療を心がけたいと思います。

日々自己研鑽に努め、最先端の医療に貢献できるよう頑張ります。



趣味のページ ～秋を感じて～

兵庫あおの病院 仲野 宏紀



今回趣味のページを担当させていただきます兵庫あおの病院の仲野宏紀です。私の趣味はテニス、登山、ダイビング、写真などいろいろありますが、その中で登山について書きたいと思います。私が登山に興味を持ったのは、大学時代にテスト勉強からの解放感を求め、友人と雑誌に載っていた三重県の大台ヶ原へ弾丸で行ったのがきっかけです。そこでの景色や達成感、ビールが忘れられませんでした。それを機に富士山や大山、宮之浦岳などを踏破し、ますます登山にのめり込んでいます。

今回、シルバーウィークを活用して北アルプスの燕岳に1泊2日で行ってきました。今年は紅葉が早く、登山口はたくさんの人でにぎわっていました。登山口付近の葉はまだ緑色でしたが、登るにつれてナナカマドの赤やダケカンバのオレンジや黄色など四季を感じながら登ることが出来ました。途中の合戦小屋で昼食のカップラーメンと名物のスイカを食べ



べておなかを満たし、「泊まっていたい山小屋 No. 1」の燕山荘まで行きました。燕山荘に到着してとりあえずビールを注文。ビールを飲みながらテラスでくつろいでいるときの達成



感と解放感がなんとも言えませんでした。その後、夕食のハンバーグ定食をペロリと完食し、山小屋のオーナーが吹くホルンを聴いていると登りの疲れが吹っ飛ばぐらいリラックスできました。ただ、山小屋は満員で3畳ほどのスペースに6人で寝たのですごくしんどかったです。夜中は快晴で一面の星空を見て、朝は雲海と御来光も見ることが出来ました。

次の日に山頂まで登ると、常念山脈や槍・穂高連峰、白馬連峰など北アルプスを一望することも出来ました。来年は白馬岳や潤沢カールに行く計画をしています。

次回の趣味のページは東近江医療センターの朝日信一先生にお願いしています。楽しみにしています。

編集後記

♪ 2015年も残り1か月程となりました。季節が一気に進んだ感がありますが、皆様体調は崩されていませんか。

♪ラグビーワールドカップ2015イングランド大会では日本が世界ランキング3位の南アフリカに勝利、サモア、アメリカにも勝利し3勝を上げましたが、残念ながらベスト8進出には至りませんでした。これまでラグビーにあまり興味のなかった方も日本代表の熱戦に歓喜し、今年の新語・流行語大賞の候補にもなっている「五郎丸ポーズ」の真似をされた方も多かったのではないのでしょうか？

♪今年もノーベル物理学賞、生理学・医学賞で日本人がダブル受賞となりました。山中教授がiPS細胞でノーベル生理学・医学賞を受賞されたのは2012年。iPS細胞の臨床応用に向けた話題も聞こえてきます。来年度は診療報酬の改訂も予定されていますので、私たち薬剤師も世間の流れに乗り遅れないように日々の業務に励みたいものです。

♪今月号は薬剤部紹介、学会報告とこれまでの内容に加え、今年度新たに行われた卒後OSCEの報告もあり充実した内容となっています。是非最後までご熟読下さい。

(R.I)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

近畿国立病院薬剤師会会誌 第四十四号 平成27年11月発行
発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局 大阪市中央区法円坂2-1-14
(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 薬剤部内)

発行人 会長 山崎 邦夫 (大阪医療)

編集 広報担当理事 宮部 貴識 (大阪医療)
広報委員 本田 富得 (大阪南医療) 川端 一功 (東近江総合医療)
朴井 三矢 (大阪医療) 中西 彩子 (奈良医療)
小西 大輔 (大阪医療) 岩槻 瑠美 (南和歌山医療)
奥田 直之 (大阪医療) 田中 絵理 (宇多野)

☆ホームページがリニューアルいたします

近畿国立病院薬剤師会のホームページが開設以来 10 年ぶりにリニューアルいたします。

<http://www.kinki-snhp.jp/>



公開ページでは施設紹介のページを新設し、施設での特徴や取り組みなど施設便りを掲載いたします。また大学関係者のページも新設し、大学関係者（教官・学生）および実務実習生の方への関連資料の配信用ページとして設置しています。

会員ページでは、各種関連資料に加え、web アンケートのページを新設いたしました。

トップページに、更新情報、講演会情報が掲載されておりますので、そちらより最新情報をご入手ください。

ご意見やお気づきの点がありましたら、広報担当者までお知らせください。

平成 27 年度広報

広報担当理事 宮部 貴識（大阪医療）

広報委員 川端 一功（東近江総合医療）、本田 富得（大阪南医療）、
朴井 三矢（大阪医療）、中西 彩子（奈良医療）、小西 大輔（大阪医療）、
岩槻 瑠美（南和歌山医療）、奥田 直之（大阪医療）、田中 絵理（宇多野）